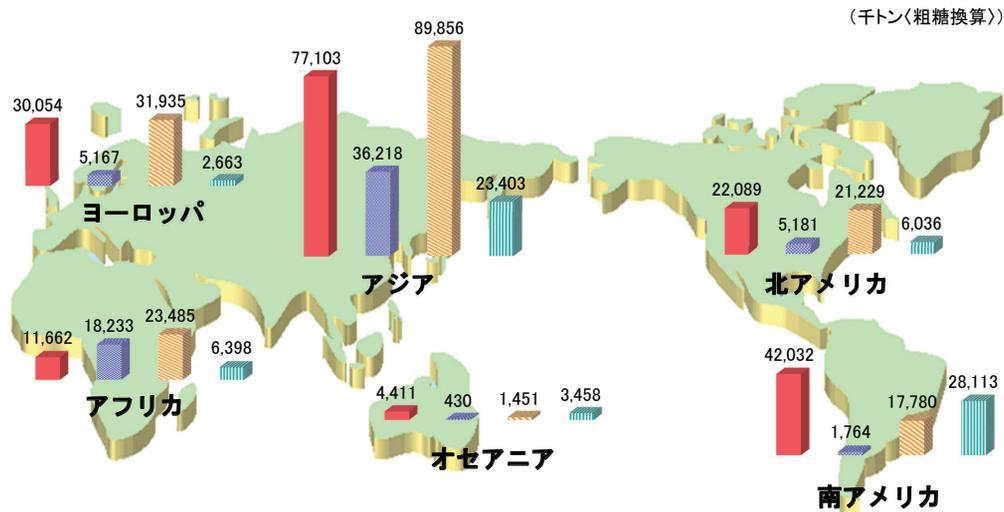


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之、水野 崇

1. 世界の砂糖需給（2022年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,844	67,989	80,969	44.8
2018/19	80,969	186,495	61,054	182,853	61,597	84,068	46.0
2019/20	84,068	181,298	69,391	182,138	71,841	80,778	44.3
2020/21	80,778	181,989	67,275	184,545	68,128	77,369	41.9
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2
2021/22 (2022年6月予測)	77,369	187,351	66,992	185,735	70,070	75,907	40.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっておりますので、次回は2022年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002737.html

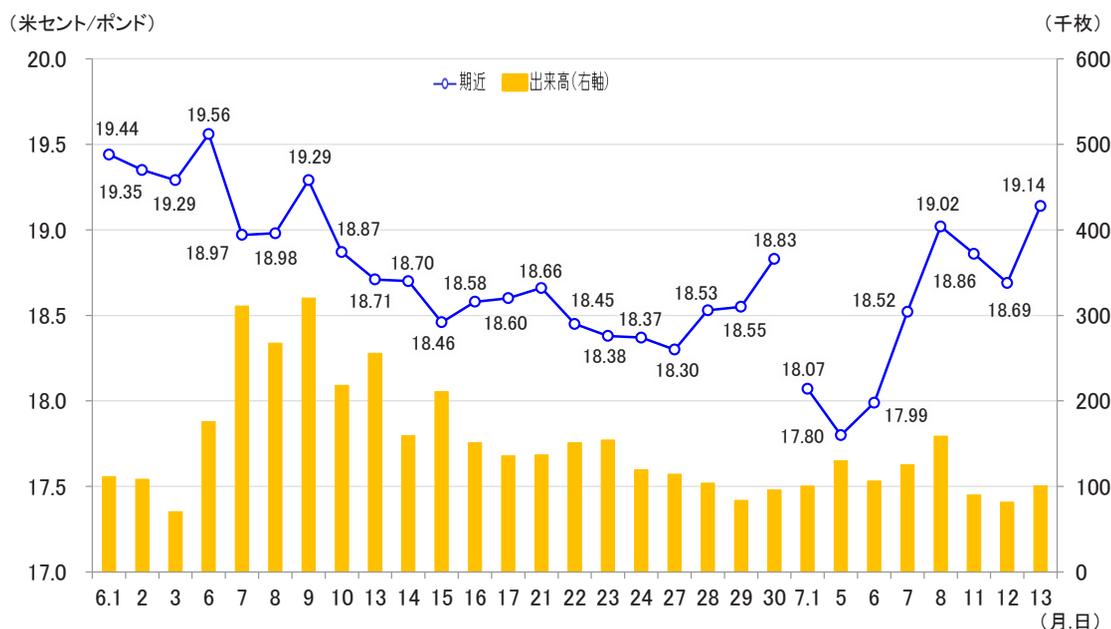
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002738.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (6/1 ~ 7/13)

～7月限は18セント後半で期日迎え、7月は一時下落するも19セント台に上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：6月は期近7月限、7月は10月限の値。

2022年6月のニューヨーク粗糖先物相場の推移を見ると（7月限）、1日は原油価格の上昇を背景に（注1）1ポンド当たり19.44セント（注2）とわずかに値を上げた。6日は、原油の先物市場が高値を記録したことを受けて同19.56セントまで上昇した。7日は、リアル安（注3）により同18.97セントまで下落した。9日は、原油価格の上昇を背景に同19.29セントまで値を戻した。10日は、米国の5月の経済指標（消費者物価指数）が40年ぶりの記録的な高水準となり、米国と世界経済に対する懸念が高まったことなどから同18.87セントまで下落した。14日は、リアル安により同18.70セントまで続落した。15日は、原油価格の下落を背景に同18.46セントまで値を下げた。16日は、ブラジルでの少雨を理由に同国の大手製糖企業が5月に公表

した2022/23年度の国際砂糖需給を40万トンの余剰から140万トンの不足に修正したことなどから同18.58セントまで上昇した。17日は、10月以降にインドが砂糖の輸出を600万～700万トンに制限との報道などを受けて同18.60セントを付けた。21日は、原油価格の上昇により同18.66セントに値を上げたが、ブラジルの大手製糖企業が同国のサトウキビ圧搾量を前年度比4.8%増と予測したことなどから、22日は同18.45セントまで下落した。23日以降は、原油価格の下落やリアル安により続落し、27日は同18.30セントまで下落した。28日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）がブラジル中南部地域の6月前半の砂糖生産量を前年同期比24%減と発表したことなどにより同18.53セントまで上昇した。30日は同18.83セントまで上

昇して7月限は納会した。

10月限に切り替わった7月に入ると、1日はレアル安を背景に同18.07セントまで下落した。5日は、原油価格の急落と継続するレアル安により同17.80セントと4カ月ぶりに18セント台を割り込んだ。7日は、中国が2200億米ドル（30兆2896億円：1米ドル=137.68円）^{（注4）}の景気刺激策を検討していることを受けて商品市場が幅広く反発し、同18.52セントまで急伸した。8日は、原油価格とレアルの堅調な推移により同19.02セントまで上昇した。11日は、商品市場の軟調な動きに押されたことや原油価格の下落により同18.86セントまで値を下げたが、13日は、原油価格の回復などにより同19.14セントまで値を戻した。

（注1）一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

（注2）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注3）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

（注4）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年6月末TTS相場。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2022年7月時点予測）

ブラジル

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：848万ha（前年度比2.3%減）
生産量：6億500万トン（同4.9%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3771万トン（同0.3%増）
輸出量：2705万トン（同0.1%減）

2022/23年度のサトウキビ生産量はやや増加し、輸出量は前年度並みの見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）による2022年7月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されている中で、前年度の不作による苗不足から848万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少すると見込まれる（表2）。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が平年より乾燥したものの、

その他の地域ではサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから6億500万トン（同4.9%増）とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、同国で6月からガソリンを対象とした商品流通サービス税の税率が引き下げられたことにより、エタノールのガソリンに対する価格競争力が下がり、製糖業者は砂糖製造への仕向けを増やすと見込まれていた。しかし、7月に入りサンパウロ州のほか一部の州でエタノールの税率についても同様に引き下げられたことで、エタノール需要の回復期待から3771万トン（同0.3%増）と前年度並みに留まると見込まれる。輸

出量は2705万トン（同0.1%減）と前年度並みで推移すると見込まれる。

エタノール製造企業が服飾企業と再生可能エネルギーの供給契約を締結

6月23日付けの現地報道によると、ブラジルの砂糖およびエタノール製造大手のハイゼン社^(注1)は、大手アパレル企業のマリーザ社と、再生可能エネルギーを供給する契約を締結した。

今回の契約は、マリーザ社の35店舗と流通センター1カ所に対して再生可能エネルギーが供給されるものであるが、同社はすでに5店舗で再生可能エネルギーを利用しており、今回の契約により、1年間で合計764トンの二酸化炭素（CO₂）排出量を削減できると試算している。また、ハイゼン社によると、供給される電力は、サトウキビ廃棄物のほか、太陽光やバイオマスなどを由来としていることで、国際再生可能エネルギー証明書（I-REC: International Renewable Energy Certification）^(注2)が発行

されるとしている。同社ではこのほか、同国12州にある大手ビール製造会社の流通センターや醸造所にも再生可能エネルギーを供給している。

同国の再生可能エネルギーは、発電エネルギー構成の85%と大きな比率を占めており、今後も多くの企業で再生可能エネルギーの利用により、カーボンニュートラルを実現するための取り組みが進むとみられる^(注3)。

(注1) 2010年に石油元売大手シェルグループとブラジルの製糖大手コサン社が共同出資して設立された合弁企業で、中南米で最大級のバイオマスプラントを所有している。

(注2) 再生可能エネルギーにより発電された電気の再エネ価値について、非営利団体The International REC Standard Foundationにより認証・発行された国際的な証書のこと。日本や中国、インドのほか世界50カ国以上で利用されている。

(注3) 詳細は、2022年3月11日付海外情報「ブラジルサトウキビ産業協会、2021年のバイオマス発電の状況を公表」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003194.htmlを参照されたい。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

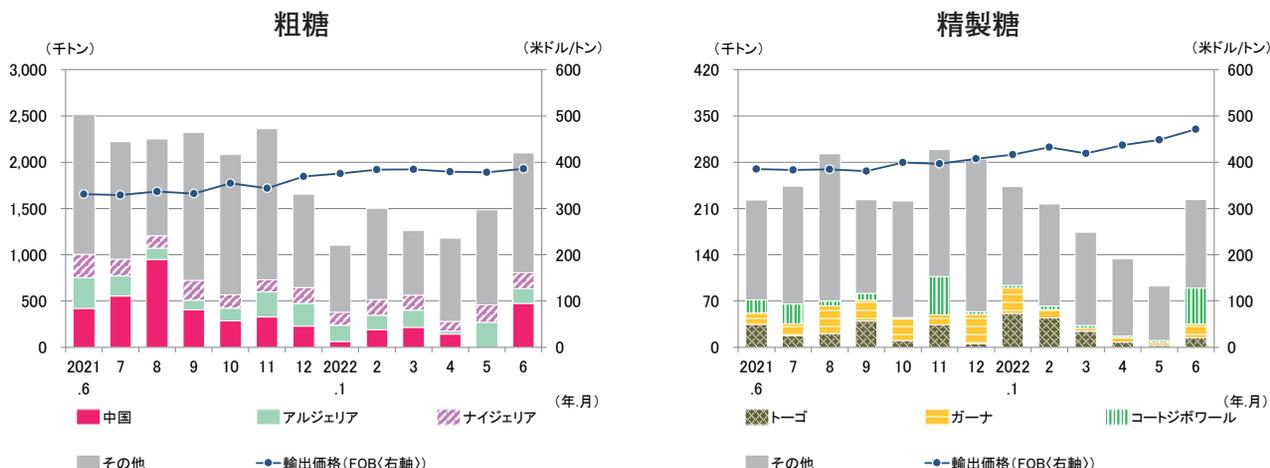
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,483	8,483	▲ 2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	605,000	605,000	4.9%	
砂糖	生産量	31,804	44,597	37,610	39,270	37,710	0.3%
	輸入量	6	8	9	2	8	▲ 10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,924	10,666	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,086	28,346	27,049	▲ 0.1%
	期末在庫量	3,778	3,345	3,212	3,299	3,216	0.1%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.5	8.4	8.5	0.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：517万ha（前年度比5.3%増）

生産量：4億4311万トン（同5.1%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3867万トン（同14.9%増）

輸出量：1161万トン（同35.2%増）

2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、517万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。主産地の降雨量は平年並みまたは平均を上回っており、生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億4311万トン（同5.1%増）と増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した収穫期前の大雨の影響が想定より軽微であったことや、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州のサトウキビ生産量が過去最多を記録するとみられることから、3867万トン（同14.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、インド政府が5月に輸出枠を1000万トンに制限したことに加え、倉庫や港での滞留分についても追加で輸出を許可することから、1161万トン（同35.2%増）と大幅

に増加すると見込まれる。

バイオ混合燃料の免税措置を拡大

7月5日付けの現地報道によると、インド政府は燃料へのバイオ燃料の混合を促進するため、バイオ燃料に対する物品税の免税措置を拡大した。今回の措置では、ガソリンでは、従来のバイオエタノール混合比率である10%を12～15%に引き上げた場合に適用され、軽油でも植物油の混合に際し、条件付きで適用されるものである。

同国政府は2021年、E20（エタノール混合率20%のガソリン）普及目標を5年前倒しの25年と見直し、その前年である2020年には国内エタノール生産能力増強のために6億2600万米ドル（861億8768万円：1米ドル=137.68円）^(注)の利子補給制度を導入した。同国のガソリンにおける平均的なエタノール混合率は約8.5%とされる中で、25年

までに混合率を2倍以上に引き上げることが求められている。

また、世界第3位の原油輸入国である同国は、従来、エネルギー輸入に巨費が投じられ、近時ではウクライナ紛争などによる原油価格高騰の影響を大き

く受ける中で、エネルギー輸入依存の抑制を図る狙いもあるとみられている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年6月末TTS相場。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

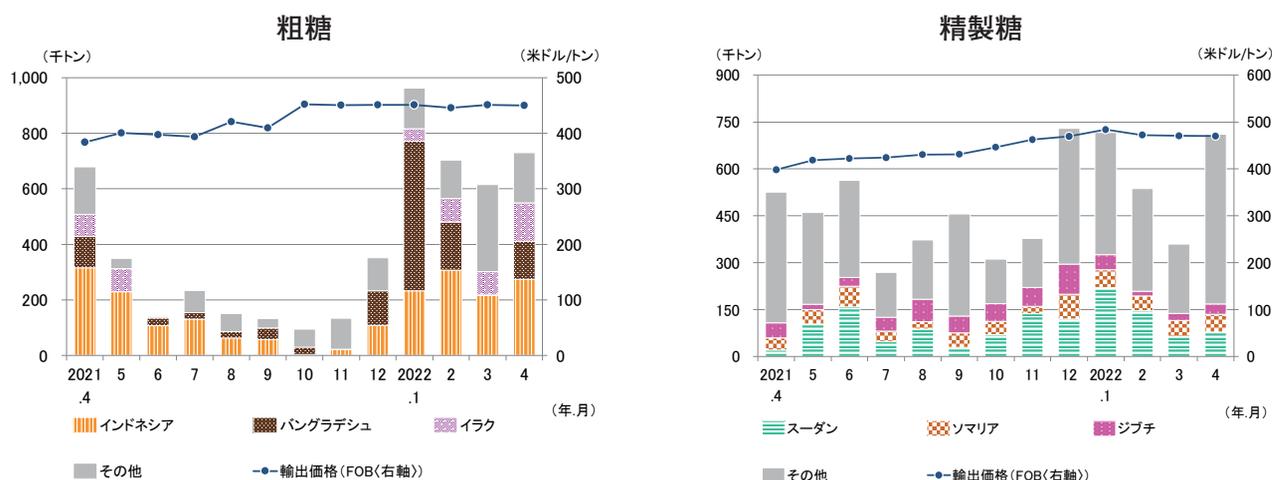
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,906	5,165	5,165	5.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,805	421,687	443,110	443,110	5.1%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	38,666	38,666	14.9%
	輸入量	664	1,686	1,022	270	144	▲85.9%
	消費量	27,648	27,324	28,679	28,620	29,376	2.4%
	輸出量	5,504	8,288	8,582	7,195	11,606	35.2%
	期末在庫量	14,833	10,452	7,853	11,815	5,681	▲27.7%
	期末在庫率	44.7	29.3	21.1	33.0	13.9	7.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度比3.6%減）

生産量：7231万トン（同0.2%減）

【てん菜】

収穫面積：14万ha（同37.8%減）

生産量：707万トン（同42.7%減）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1037万トン（同10.1%減）

輸入量：635万トン（同20.5%減）

2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度、 輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール（前年度比3.6%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、7231万トン（同0.2%減）と前年度並みにとどまると見込まれる。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により14万ヘクタール（同37.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少

に加え冬季の寒波などを背景に707万トン（同42.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞やてん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停止などを受けて1037万トン（同10.1%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増されたことから635万トン（同20.5%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

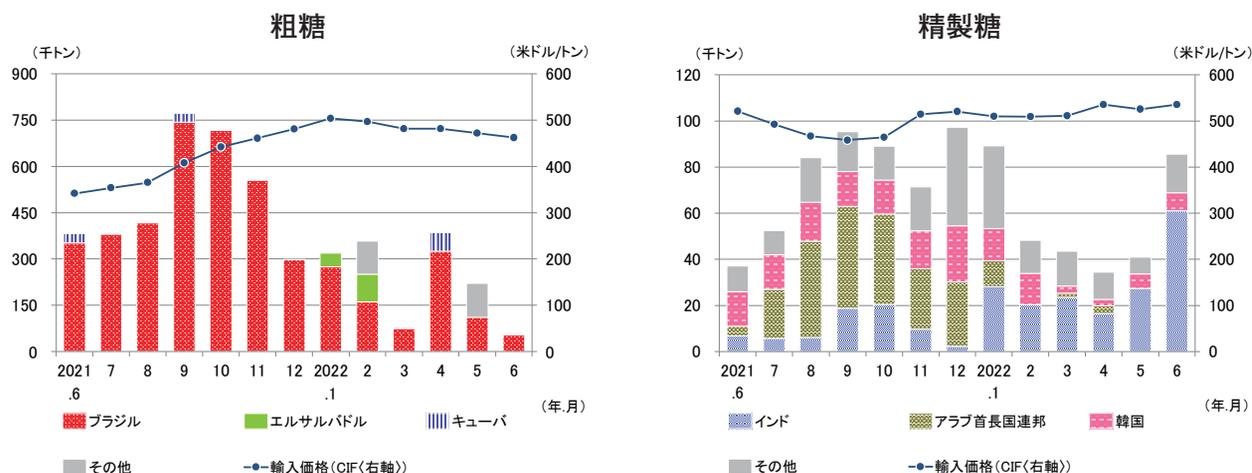
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲ 3.6%	
サトウキビ生産量	77,618	73,715	72,441	73,890	72,307	▲ 0.2%	
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲ 37.8%	
てん菜生産量	11,670	10,900	12,330	7,170	7,070	▲ 42.7%	
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,236	10,366	▲ 10.1%
	輸入量	5,038	6,582	7,978	5,332	6,347	▲ 20.5%
	消費量	16,522	16,308	16,740	16,849	16,524	▲ 1.3%
	輸出量	210	192	132	176	168	26.9%
	期末在庫量	11,218	12,559	15,196	13,774	15,217	0.1%
	期末在庫率	67.0	76.1	90.1	80.9	91.2	1.1ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

E U

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：145万ha（前年度比1.4%減）
 生産量：1億1031万トン（同12.0%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1720万トン（同13.9%増）
 輸出量：130万トン（同3.1%増）

2021/22年度の輸出量は、やや増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、145万ヘクタール（前年度比1.4%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨量が多く、今期は大規模な病虫害も発生していな

いため、1億1031万トン（同12.0%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産見込みを受けて1720万トン（同13.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、消費量の増加も見込まれる中で、それを上回る砂糖の増産などを背景に130万トン（同3.1%増）とやや増加すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

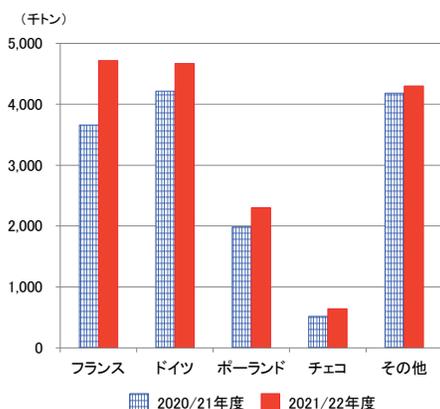
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,474	1,456	1,453	▲ 1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,517	110,308	110,310	12.0%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,102	17,191	17,195	13.9%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,935	1,977	4.7%
	消費量	17,647	17,016	16,744	17,708	17,728	5.9%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,336	1,301	3.1%
	期末在庫量	1,598	2,347	1,332	1,414	1,474	10.7%
	期末在庫率	8.0	12.7	7.4	7.4	7.7	0.4ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」
 注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。
 注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

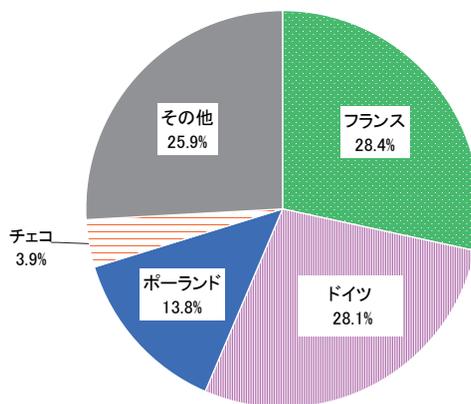
(参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2022年4月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2021/22年度は予測値。

国別の生産割合 (2021/22年度)



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向 (2022年7月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、これら2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度同）
生産量：3116万トン（前年度比3.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：410万トン（同0.5%減）
輸出量：309万トン（同15.9%減）

2022/23年度の砂糖輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度同）と前年度並みと見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、夏の終わりから秋にかけて主産地であるクイーンズランド（QLD）州での降雨が予想されることから、3116万トン（前年度比3.5%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前月予測から下方修正され、410万トン（同0.5%減）とわずかな減少が見込まれる。輸出量は、2021/22年度の推定値が前月予測から上方修正されたことから309万トン（同15.9%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖関連団体、バイオ市場への参入推進計画を策定（豪州）

豪州砂糖研究センター（SRA）^(注1)は7月6日、

サトウキビ産業における砂糖生産以外での収益化推進に向け、砂糖関連団体がバイオエタノールやプラスチックなどのバイオ関連市場への参入推進計画を策定したと発表した。

「シュガー・プラス」と名付けられた本計画には、将来的な構想や目標達成に至る工程などが具体的に記され、QLD州や地元研究機関の支援のもと、SRAやサトウキビ生産者団体Canegrowersなどの業界関係団体によって策定されたものである。今後、豪州の砂糖業界全体が、取り組む計画の一つと位置付けられている。^(注2)

QLD州は、同国サトウキビの95%を生産しており、年間産出額は約40億豪ドル（3836億円：1豪ドル=95.90円^(注3)）で、同州および隣接するニューサウスウェールズ州北部を含む2万3000人の

雇用を支えている。QLD州農業水産大臣は、今後、本計画は同州の経済発展を支える砂糖産業の重要な役割を担うと発言しており、同州政府はこの業界主導の取り組みの発展と構想実現に向け支援していくと述べた。

(注1) サトウキビ生産者、製糖企業、連邦政府およびQLD州政府の拠出基金によって、サトウキビおよび砂糖の生産性の向上のための技術研究を行う非営利組織。

(注2) 豪州製糖業者は、持続可能な手法による供給体制の確保に向けた方針を公表している。詳細は、2021年11月17日付け海外情報 (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003095.html) を参照されたい。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の6月末TTS相場である1豪ドル=95.90円を使用。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	350	342	▲ 0.0%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	30,170	31,156	3.5%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,243	▲ 0.5%	
	輸入量	17	10	15	17	13.3%	
	消費量	1,085	1,041	1,039	1,055	▲ 0.6%	
	輸出量	3,449	3,357	3,670	3,282	▲ 15.9%	
	期末在庫量	747	744	174	665	178	2.1%
	期末在庫率	16.5	16.9	3.7	15.3	4.3	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9207万トン（同38.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1070万トン（同34.3%増）

輸出量：773万トン（同95.6%増）

2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）

と前年並みで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中で、主産地の降雨量が平年を上回り、単収が大きく改善することで9207万トン（同38.1%増）

と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト^(注)の普及を背景とした梢頭部^{しょうとう}や葉などの混入が製糖効率を低下させるものの、1070万トン(同34.3%増)と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて773

万トン(同95.6%増)と前年比で倍増が見込まれる。

(注) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

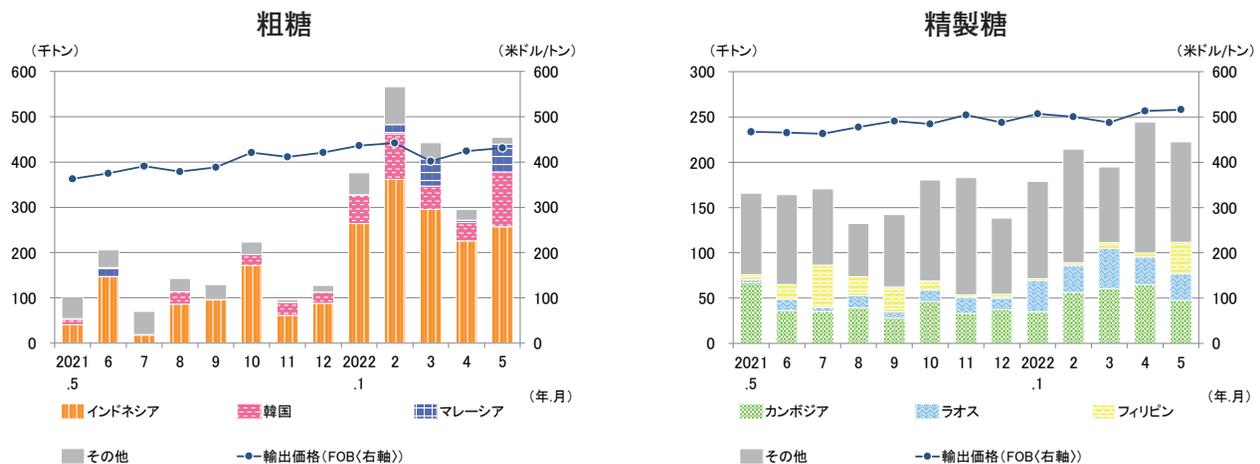
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (6月予測)	2021/22 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,071	92,071	38.1%
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,703	34.3%
	輸入量	4	66	113	3	23.9%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	▲2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,596	95.6%
	期末在庫量	7,899	4,532	5,074	4,516	▲7.9%
	期末在庫率	57.0	37.0	67.3	40.6	41.5

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：[Global Trade Atlas]

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。